



特定非営利活動法人
コンfrontワールド

2025年度 年次報告書

2026年1月 発行

目次

- コンfrontワールドとは
- 代表理事挨拶
- 活動地
- 活動概要
- ウガンダ水衛生支援事業
- タンザニア教育事業
- タンザニア学校建設クラウドファンディング
- カンボジア学校建設事業
- コンfrontワールドNEWS 2025
- 現地パートナーNGOスタッフからのメッセージ
- スタッフ紹介
- 団体概要

コンfrontワールドとは

特定非営利活動法人コンfrontワールドは、
プロボノの力で世界の不条理に立ち向かうNPO法人です。

世界には、紛争、貧困、病気など、
数えきれない課題が存在します。

私たちはその課題に真正面から向き合い、
社会の不条理を解消するために、活動を続けています。



Vision (ビジョン)

不条理の無い世界の実現
=生活と権利が保障され、
誰もが自分で未来を決められる社会の実現

Mission (ミッション)

「紛争・貧困などによって
困難な状況にある人々の自律を後押しする」
「情報と選択肢を届け、人々の社会貢献を後押しする」

代表理事挨拶



こんにちは。

特定非営利活動法人コンフロントワールド代表理事の荒井です。

まずは、この活動報告書をご覧いただき、ありがとうございます。

コンフロントワールドとして、今回が初めての活動報告書となります。

まだ小さな一冊ですが、私たちにとっては、これまでの歩みを刻む

大切な第一歩だと感じています。

設立当初、当時社会人1年目だった私は、会社員として働きながら、それでも何か世界のために行動したいという気持ちを抑えきれず、副業という形で活動を始めました。

そこから今に至るまで、私自身はいまも副業として関わり続けています。

学生は学業の合間に、社会人は本業を持ちながら、同じ想いを持った仲間に恵まれ、少しずつ活動を広げてきました。

私たちは、水やトイレ、教育といった「生きるための基盤」を整える支援を、主にアフリカの地域で行ってきました。

日本では、停電を心配することなく、蛇口をひねれば安全な水が手に入り、学校に通い、医療を受けることが当たり前にあります。

こうした暮らしは、世界全体で見れば、ごく限られた地域だけが享受できているものです。

だからこそ私は、遠い出来事としてではなく、当事者として、この活動に関わり続けています。

ここにまとめているのは、これからも続く長いコンフロントワールドの物語の中の、ほんの一章にすぎません。

雇用や肩書きに縛られず、一人ひとりが主体的に関わる活動が広がっていくことで、社会課題に向き合うこと自体が、もっと身近で開かれたものになると信じています。

この活動が続いているのは、関わってくださる一人ひとりの存在があるからです。この報告書が、私たちのこれまでと、これからを知っていただききっかけになれば幸いです。

不条理の無い世界の実現に向けて、これからも取り組んでいきます。

代表理事 荒井昭則

活動地

コンfrontワールドは、ウガンダ・タンザニア、カンボジアの3か国で支援事業を行うとともに、日本国内では、イベント主催・出展などを通じて情報発信に取り組んでいます。

ウガンダ共和国



- 「アフリカの真珠」とも呼ばれる、自然豊かな国です。
- その美しさから、チャーチル元英首相がそう称えたと言われています。
- 一方で、農村では安全な水や衛生設備が十分でない地域が残っています。
- 生活と健康を守るため、水と衛生の整備が重要な課題となっています。

カンボジア王国



- アンコール遺跡に象徴される、歴史と文化の深い国です。
- 都市の発展が進む一方で、農村の学校には整備が追いついていない地域があります。
- 教育環境の充実が、地域の未来をひらく大切なテーマとなっています。

タンザニア連合共和国



- キリマンジャロやサファリで知られる、自然と野生動物が身近な国です。
- 経済成長が進む一方、地方の教育環境には格差が存在しています。
- 設備が整っていない学校で学ぶ子どもたちも少なくありません。
- 安心して学べる学校づくりが、次の世代を支える鍵となっています。

日本



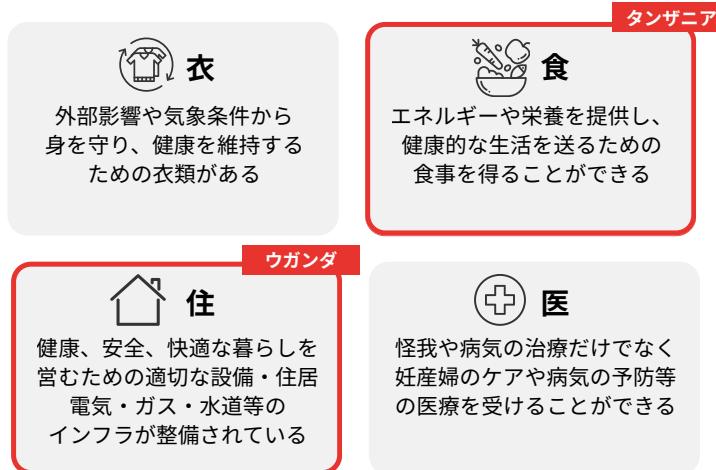
- コンfrontワールドのスタッフが集まる、活動の中心拠点です。
- 国内の方々と交わりながら、日常では関わることの少ない活動地の状況を届け、関わる機会をつくっています。
- このつながりとご支援に支えられ、海外での支援事業を継続しています。



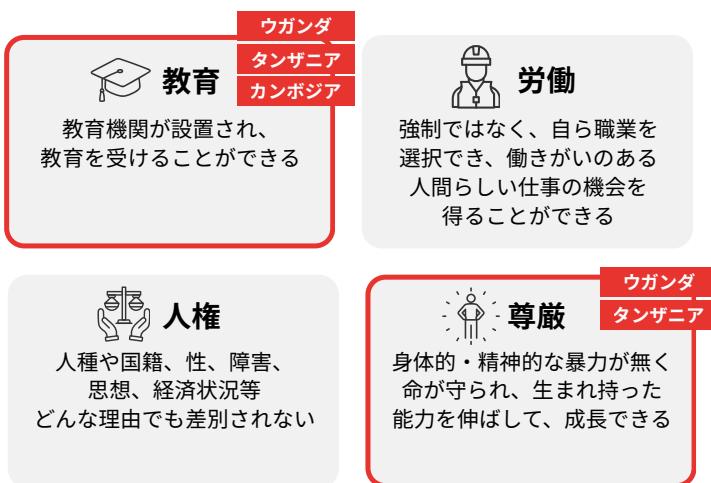
活動概要

「不条理のない世界の実現」というVisionのもと、現地パートナーと協力し、水・衛生・教育を中心に支援を行っています。

健康で文化的な最低限度の生活

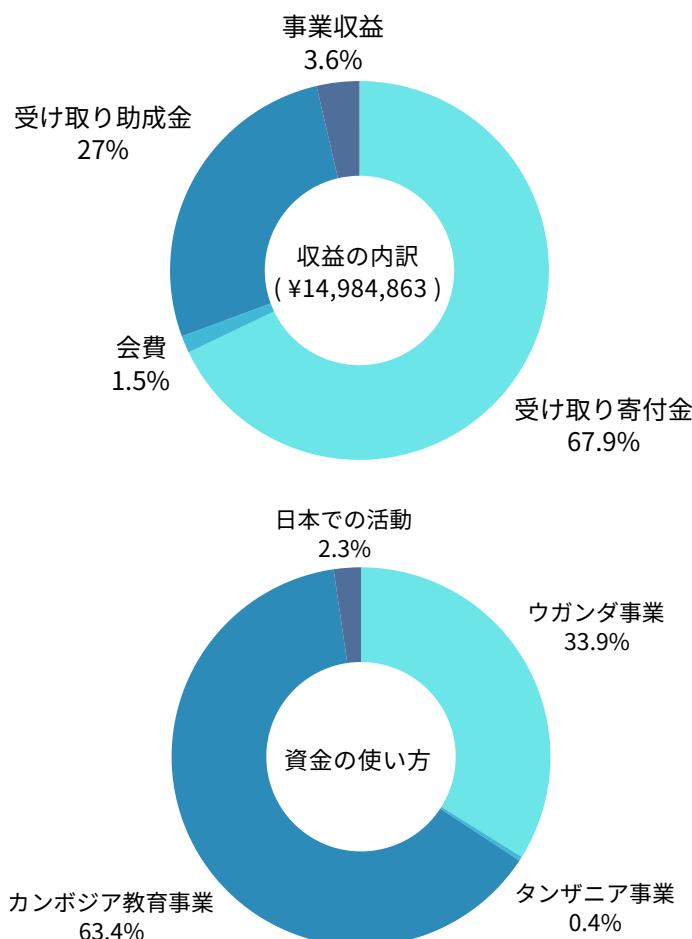


安心して社会に参加できる権利



活動資金の内訳

2024年度（2024年9月1日～2025年8月31日）



ポイント

クラウドファンディングでご支援いただいた約110万円が受け取り寄付金に含まれています。また、カンボジア学校建設向けの大口のご寄付もいただきました。

民間団体、企業が主催する助成金に採択いただいたほか、国からの委託事業として行なった万博事業が事業収益に計上されています。

カンボジアで学校の建設を寄付金にて、ウガンダでのトイレ建設や井戸関連の整備を助成金にて実施しています。

イベント主催や万博に係る交通費、税務関係費、各種オンラインツール利用費が日本での活動に含まれます。

ウガンダ水衛生支援事業 1/2

東アフリカ・ウガンダ共和国の農村部「ブタンバラ県」にて、水衛生環境の改善を目的とした活動を行っています。上下水道が整備されていない地域で、現地NGOや地域コミュニティが主体となり、水・衛生施設の整備と衛生意識の向上に取り組んでいます。



青いポロシャツを着ているのが、現地NGO「JEDOVC」(ジェドヴィック)のスタッフです。2018年よりともに活動しています。

主な活動内容

貯水タンクの建設

学校に12,000リットルの貯水タンクを設置しています。子どもたちは学校を休んで遠くの水源へ行く必要がなくなり、通学しながら安全な水を得られる環境が整いつつあります。



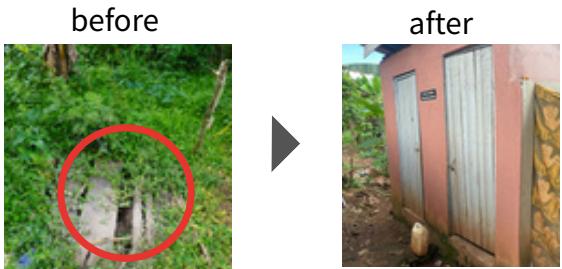
手洗い装置・石鹼の提供

簡易手洗い装置を学校や公共施設に設置すると同時に、液体石鹼の生産と提供を行っています。



トイレの建設

四方が壁で囲われ、床もコンクリートで固めた衛生的で安全なトイレを建設しています。これにより、野外排泄による感染症リスクやレイプ被害の防止につながっています。



コミュニティへの衛生指導

手洗い方法の指導や衛生教育を、学校やコミュニティで実施することで、子どもたちや保護者の衛生意識の向上を促しています。



昨年度の活動実績 (2024年9月 - 2025年8月)

- 貯水タンク : 5棟建設 (受益者: 1,780人)
- 浄水フィルター : 15基設置 (受益者: 1,780人)
- プリペイド式井戸 : 5基建設 (受益者: 1,500人)
- 学校用トイレ : 3棟建設 (受益者: 1,130人)

- 手洗い関連 (受益者: 9,309人)
 - 手洗い装置 : 129基
 - ティッピータップ : 525基設置
 - 石鹼 : 1,908L

石鹼生産の様子

JEDOVC事務所近くのソープステーションにて、液体石鹼を生産しています。石鹼の材料となる苛性ソーダ等は首都のカンパラから調達しています。



手洗い装置 (左) とティッピータップ (右)

蛇口付きのタンクで作られているのが、手洗い装置です。より簡易的に作られた足踏み式のものはティッピータップと呼ばれています。ともに、中には石鹼水が入っています。



ウガンダ水衛生支援事業 2/2

2025年12月13日～12月20日、スタッフの大崎、岩尾が活動地であるウガンダ・ブタンバラ県を訪れ、活動状況の視察とともに、現地NGOスタッフや住民の方々へのヒアリングを行いました。

現地NGO「JEDOVC」スタッフへのQ&A

Q. 支援が必要な村はどれほどあるのですか？

A. ウガンダ・ブタンバラ県には、148の村があります。その内、70の村において水不足の問題があり、支援を必要としています。ブタンバラ県全体の約40%の人が安全な水にアクセスすることができない状況です。

Q. 支援先はどのように決めていますか？

A. JEDOVCでは子ども向けの施策にフォーカスしていることから、基本的には、子どもの多い家庭や学校への支援を行っています。また、ヘルスケアセンターから提供されたHIV患者のリストをもとに、優先度を調整しています。トイレの建設は、HIV患者のいる家庭を優先的に行ってています。

Q. JEDOVCのスタッフはどのような想いでブタンバラでの支援活動を行っていますか？

A. 全員がブタンバラのことが好きで、この地をよくしたいと考えています。水衛生の専門家として活動できるこの仕事が好きです。また、水衛生のプログラムを住民に教えている時が楽しいです。

Q. これまでと今後の活動についてはどのように考えていますか？

A. これまでのプロジェクト進捗は良いと考えています。今の支援対象（10の村、4の学校）に対しては十分な支援ができていますが、それ以外は支援を要している状況のため、今後は支援対象を拡大して、衛生環境を広げていきたいです。



現地住民の声

自宅にトイレがなかったため、他の家のトイレを借りていました。
今は自分の家に安心して使えるトイレができ、本当に助かっています。
— トイレが建設された家庭の住民より



以前のトイレは（用を足すための）穴の深さが浅く、ハエが多く集まっていました。足場も不安定で、子どもが穴に落ちる心配がありました。
— トイレが建設された家庭の住民より

貯水タンクができる前は、1日に2回、往復1時間ほどかけて水汲みに行かなければなりませんでした。そのため、授業を2時間ほど欠席せざるを得ない日もありました。
学校に貯水タンクが建設されてからは、水汲みに行かずに登校できるようになりました。
ただ、村にあるタンクは小学校のものだけなので、家庭で使えるタンクもあると良いと思います。
— 貯水タンクが建設された学校より

～百聞は一見に如かず～

現地での体験を通して、水汲みや野外排泄の負担の大きさ、水やトイレの重要性を実感しました。
今後も、現地の方々と対話を重ねながら、必要な支援を現地とともに形にし、活動に取り組んでいきます。

タンザニア教育事業

東アフリカ・タンザニア共和国の2つの地域にて、学校建設支援および保育施設の経営支援を行っています。
私たちは、小学生の基礎学力と英語力の向上を通じて、子どもたちの将来の選択肢を広げることを目指しています。

主な活動内容

学校建設

タンザニア南東部・ムトワラ州マサシ県において、私立小学校の建設支援を実施しています。

同地域では、教育の質や英語学習の機会に課題があり、これが中等教育進学の障壁となっていることから、基礎教育段階での学習環境の改善が求められていました。

2020年より、私立学校の認定要件である「教室6棟」「図書館」「トイレ10個」の整備を段階的に進め、現在は要件を満たす施設がすべて完成しています。
(トイレについては、生徒用8個・教員用2個を整備しました。)

2024年には、政府から正式に私立学校としての認定を受け、生徒の受け入れを開始しました。

生徒数は2023年の約40名から、2024年には120名へと増加し、地域における重要な学びの場として機能しています。



2023年に現地を訪問したメンバーの渡井（写真右）と校長のプロジェクト氏（写真左）。
2020年よりともに活動しています。



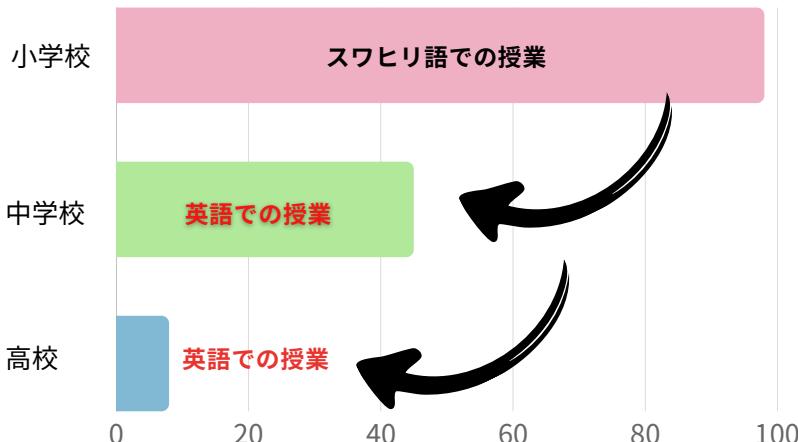
保育施設経営支援

タンザニア北東部のアルーシャ州にて、保育施設に対し、帳簿作成を含む運営管理を支援する経営テキストの提供と、文房具購入のための資金支援を行っています。

当該保育園では、保護者が授業料を満額支払えない状況が続いている、必要な物資の購入や保育士の増員が難しいなどの課題に直面しています。



タンザニアの進学率



タンザニアでは、小学校の授業はスワヒリ語で行われる一方、中学校以降は英語で行われます。

この言語環境の変化が学習の遅れにつながり、中学校から高校にかけて、進学率が低下する要因となっています。

また、文房具や椅子・机の不足、教師の質・モチベーションが低いといった問題も重なり、教育環境は十分とは言えない状況です。

※タンザニア教育科学技術省、世界銀行、ユニセフデータより作成

タンザニア学校建設クラウドファンディング

前述の小学校には現在、想定を上回る120人の生徒が通っています。一方で、調理場の衛生環境が十分ではなく、体調不良による欠席が増えているという問題が明らかになりました。

このままでは子どもたちが安全に学校で学べない。

2025年9月、私たちは衛生的なキッチンを建設し、子どもたちに安心できる給食を届けるためのクラウドファンディングを実施しました。

皆さまのご協力により、無事に目標金額を達成することができました。

いただいたご寄付は給食室の建設や内装等に使用させていただきます。

本当にありがとうございました。

給食でお腹を壊さないでほしい—タンザニアの子どもたちに清潔なキッチンを！

支援先 特例認定NPO法人 コンfrontワールド



従来の調理環境



簡易的な調理場しかなく、衛生的とは言えない状況でした。

完成イメージ



頑丈で虫や砂埃が入らないような作りを想定しています。

ご支援いただいた約110万円は以下の「フェーズ1」と「フェーズ2」の工程に使用する予定です。

【フェーズ1：建物の基礎と骨格を作る工事】(費用：約65万円)

基礎工事・床のコンクリート・柱と梁（はり）の建設・壁の建設など

【フェーズ2：屋根と外観を仕上げる工事】(費用：約41万円)

屋根の設置・ドアの取り付け・ドア金具の取り付け・窓の取り付け・窓枠の設置 など

【フェーズ3：内装と設備を整える工事】(費用：約54万円)

内装仕上げ・床の仕上げ・塗装工事・厨房（ちゅうぼう）設備の導入・衛生設備の導入など

クラウドファンディングを終えて



担当：タンザニア学校建設、ファンドレイジング
本業：キャリアドバイザー

年齢：20代
団体での活動歴：3年

クラウドファンディングでは、無事に目標の100万円を達成することができました。支援者の方のつながりからご寄付いただいたり、メンバーが広く声かけを行ったりするなど、今まで届いていなかった方々に私たちの事業を知っていただくことができました。ありがとうございました。私たちはまずは今年入学した子どもが卒業するまでの7年間、質の高い教育を継続提供することを目指します。今後もコンfrontワールドに关心を持っていただけると幸いです。

渡井 菜摘

カンボジア学校建設事業

カンボジアで学校建設ボランティアを行うNPO法人HEROさんと連携し、農村部に小学校を建設するという、新たに始まったプロジェクトです。カンボジア農村部では内戦の影響で十分な教育環境が整っておらず、安心して学べる校舎が不足しています。新たに完成した校舎は雨風の影響を受けず、安心して授業を行えます。

2025年6月に開かれた新校舎の開校式には、コンフロントワールドのスタッフ3名も参加し、感謝状をいただくとともに子どもたちとの交流を楽しみました。



Before

旧校舎の外観



壁がなく、風雨にさらされながら授業を行っていました。

旧校舎の内装



簡易な構造で、倒壊の恐れがありました。

After

新校舎の外観



壁と屋根を備えた教室が整備され、安心して授業を行えるようになりました。

新校舎の内観



耐久性のある校舎となり、机などの設備も整備され、学習環境が改善しました。

カンボジア渡航を振り返って



大崎 真幸

担当：タンザニア学校建設、ファンドレイジング
本業：建築士

年齢：30代
団体での活動歴：1年

ファンドレイジングチームの活動の一環で渡航に参加しました。海外経験はありますが、コンフロントワールドに所属してからは初めてです。職業柄現場主義ということもあります、手触り感がないまま活動することに違和感を持っていたので、今回渡航がかなってよかったです。
内装が白いことで、旧校舎よりも明るくポジティブな印象があり、机は鉄のフレームなので長持ちしそうです。子どもたちと触れ合って、人懐っこさや物覚えの早さを実感しました。今後の活動につながるよい経験でした。

NPO法人HEROとの連携

カンボジアで学校や幼稚園などの建設・運営支援を行なっている日本のNPOです。代表荒井と繋がりがあり、今回のプロジェクトが実現しました。NPO法人HEROさんの活動にもぜひご注目ください。



コンfrontワールドNEWS 2025

1

ウガンダ・現地NGOスタッフとともに大阪・関西万博へ

2025年7月、ウガンダの現地NGOスタッフ2名を日本に招き、大阪・関西万博に参加しました。

万博訪問と併せて、日本の子どもたちとのワークショップも開催しました。

ウガンダの暮らしや水衛生の現状について、現地の写真やティッピータップを用いた体験ワークを行い、互いに質問を交わしながら理解を深めました。

互いの文化や価値観に触れる貴重な時間となり、「ともに学び合うパートナー」であり続けることの大切さを改めて実感する機会になりました。



2

Forbes JAPAN「ソーシャルR&D」を実装するNPO50への選出

ソーシャルR&Dとは、複雑な社会課題に対して、現場での試行と学びを通じて解決策を生み出す取り組みです。

2025年、コンfrontワールドは、Forbes JAPAN 12月号で「ソーシャルR&Dを実装するNPO50」に選ばれました。
“プロボノが創る次世代の国際協力”を実践する団体としての評価です。

コンfrontワールドでは、本業を持ちながら国際協力に关心を持つメンバーが集い、現地パートナーNGOと対話しながら、現地の課題に試行錯誤しながら取り組んできました。

「専門家だけ」ではなく、関心を行動に変える人たちが関わり続けている——
その姿勢が、今回の選出につながったと受け止めています。

これからも、現地パートナーとともに社会課題に挑み、小さな学びと変化を積み重ねながら、国際協力の新しい形を模索し、体現していきます。



現地パートナーNGOスタッフからのメッセージ



JEDOVC 代表
Kibirige Dickson

コンfrontワールド、そしてウガンダの人々の発展のために多大な愛と情熱を注いでくださっている日本の皆さまのご招待により、日本を訪問できたことを大変嬉しく思います。

ブタンバラの人々が安全で清潔な水を利用できるようにするためのご支援、そして今回の訪問を支えてくださったコンfrontワールドと日本の皆さまに、心より感謝申し上げます。

不衛生な環境や汚染された水によって引き起こされる病気から、特に子どもたちを守るために、今後も日本の皆さまがブタンバラの人々を支え続けてくださることを願っています。

コンfrontワールドおよび私たちの活動にご理解とご協力を賜り、マサシ地域を中心としたタンザニアの子どもたちに、より良い教育環境を提供するための学校インフラ整備をご支援いただいておりすること、心より御礼申し上げます。



プロフィナ英語小学校 校長
Daniely Project

皆さまからお寄せいただいたご寄付は、これまでに教室・図書館・トイレの建設に活用させていただきました。現在は、新たに学校のキッチン建設に重点を置いて取り組んでおります。

今後は、キッチンに加え、食堂やフェンスなど学校運営に必要なインフラを順次整備し、児童および教職員が安心して学び、働くことのできる教育環境を整えることを目標としております。中でも、キッチンの建設が最優先課題となっております。

皆さまの温かいご支援とご厚情に、改めて深く感謝申し上げます。今後とも何卒よろしくお願ひ申し上げます。

スタッフ紹介

コンfrontワールドは、代表を含む全員が「他に本業を持つボランティア」として活動しています。バックグラウンドも住んでいる場所も多様なメンバーで構成されています。全国各地、海外在住のメンバーもいます。



代表理事
荒井昭則



副代表理事
渡井菜摘



理事
大崎真幸



ウガンダ事業
新井一晃



ウガンダ事業
岩尾夏樹



ウガンダ事業
木場まり



ウガンダ事業
谷口あゆみ



ウガンダ事業
山本雅茂



タンザニア事業
北島円香



タンザニア事業
川崎花純



タンザニア事業
落谷友加李



事務局
相澤宏子



事務局
鈴木桃加



事務局
川田麻世



広報
田中信行



広報
山下颯太

団体概要

正式名称	特定非営利活動法人コンfrontワールド
英名	Confront World
住所	東京都港区浜松町二丁目2番15号浜松町ダイヤビル2F（リモートにて活動）
ホームページ	https://www.confrontworld.org
代表者	荒井 昭則
代表Eメール	confrontworld@gmail.com
設立年月日	2017年5月1日 任意団体として発足 2018年2月14日 設立（NPO法人として認証）
所轄庁	東京都
メンバー数	16名
理事	荒井昭則（代表理事） 渡井菜摘 大崎真幸
監事	半田志野
活動対象国	ウガンダ共和国 タンザニア連合共和国 日本 カンボジア共和国
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ ウガンダ共和国における貯水タンク、トイレ建設等を通した水衛生関連支援 ・ ウガンダ共和国における石鹼生産施設の設置、住民への石鹼提供 ・ タンザニア連合共和国における学校建設、保育施設の経営支援 ・ カンボジア王国における学校建設 ・ 国内における啓発活動等

団体ホームページ



X (旧Twitter)



instagram



ご寄付



1年間の**1,000円**のご寄付で

10人に水を届けることができます。

